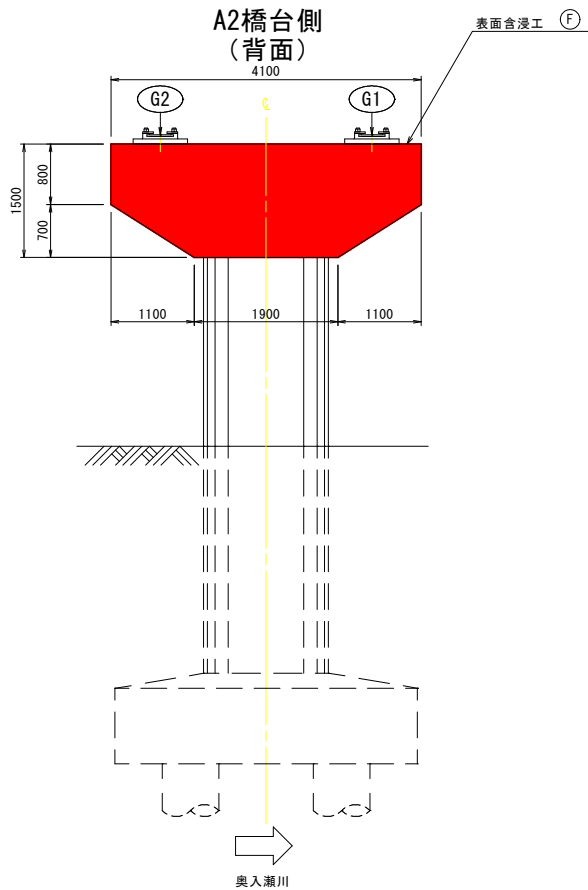
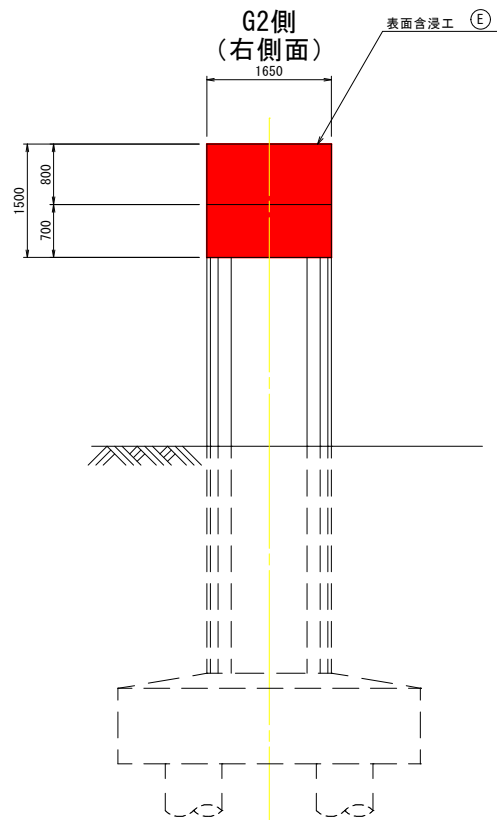
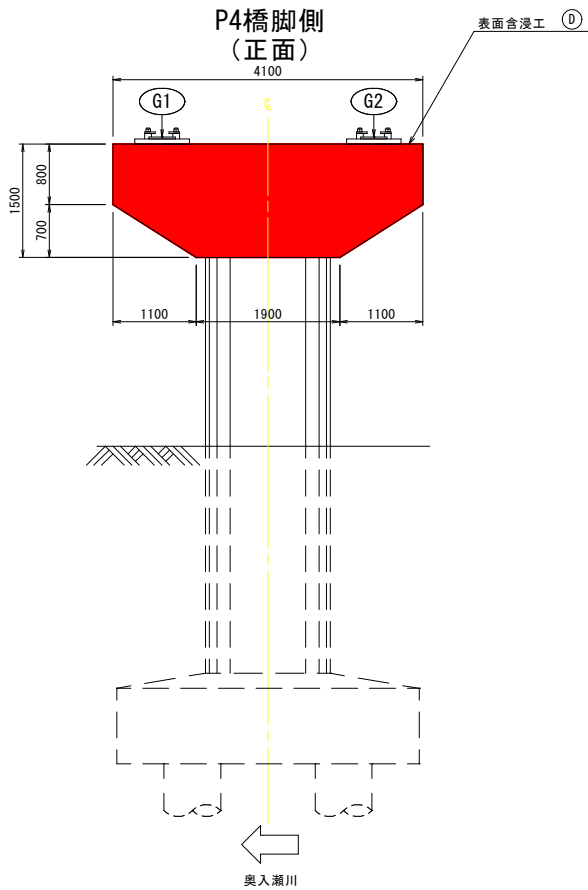
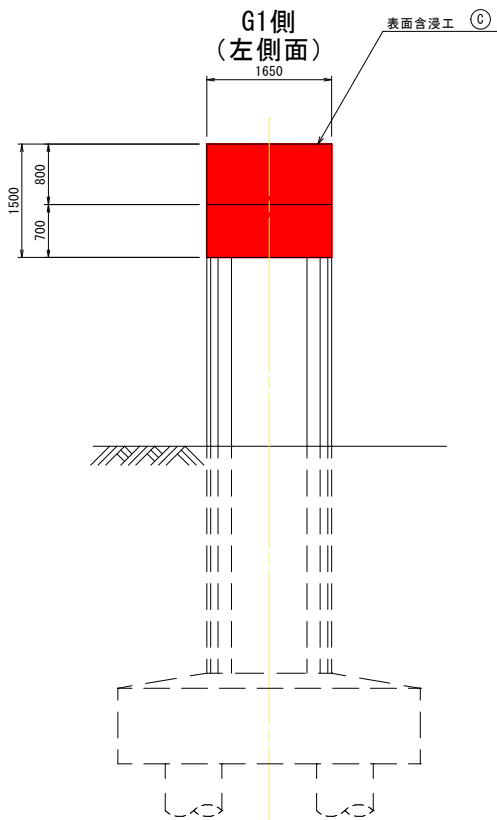
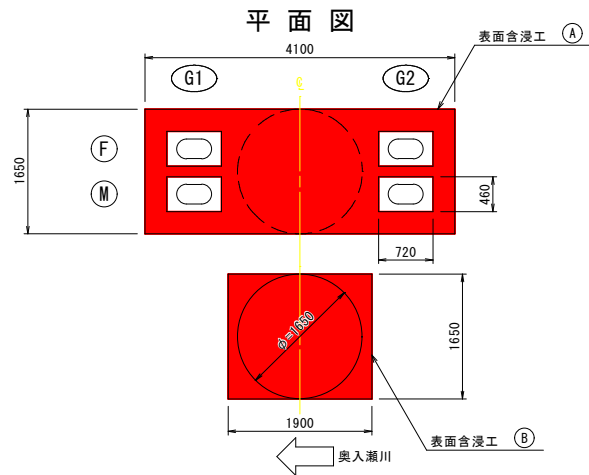


令和8年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 8 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
下部工表面処理工図 (その6)		縮尺	S=1:50
図面番号		業中	
おいらせ町			
青 森 県			

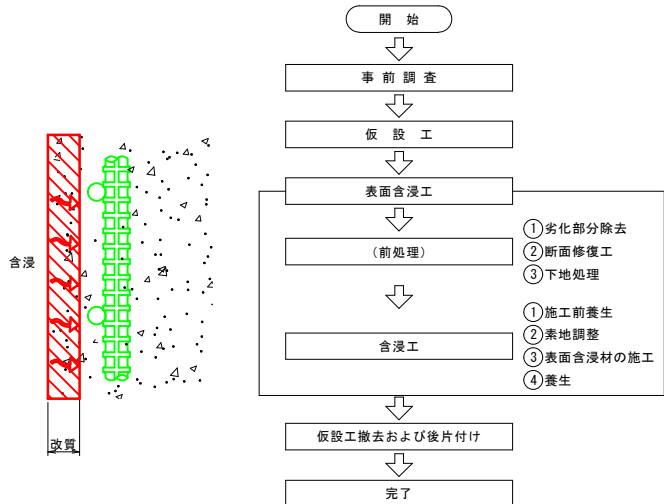


## 神明橋 下部工表面処理工図（その6）

P5橋脚



表面含浸工  
表面含浸工の施工フロー



材 料 表

工 種	仕 様
表面含浸工	高分子系 (標準使用量0.25kg/m <sup>2</sup> )

高分子系表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> )	施工方法	塗重ねの工程間隔
素地調整・下地処理	別途	—	—
下地の確認および清掃	別途	—	
1 高分子系表面含浸材	0.25	吹付け、ローラー刷毛塗り	6～12時間以上

表面含浸工 数量表

工 法	箇 所	寸 法	数 量
表面含浸工	P5橋脚	① 1.650×4.100-0.460×0.720×4	= 5.440 m <sup>2</sup>
		② 1.650×1.900-1.650×1.650×1/4×π	= 0.997 m <sup>2</sup>
		③ (0.800+1.304)×1.650	= 3.472 m <sup>2</sup>
		④ 0.800×4.100+(4.100+1.900)×0.700/2	= 5.380 m <sup>2</sup>
		⑤ (0.800+1.304)×1.650	= 3.472 m <sup>2</sup>
		⑥ 0.800×4.100+(4.100+1.900)×0.700/2	= 5.380 m <sup>2</sup>
		合 計	= 24.1 m <sup>2</sup>

注記

- 本図面は、既存資料および現地調査をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 表面含浸工を適応する場合、無色透明であり実施可否がコンクリート表面で判断できない為、「補修履歴板」等で実施日を明示すること。
- 高分子系表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。